

教師なし学習による対話エージェントの構築

(研究期間：平成 13 年～17 年)

任期付研究員：鳥澤健太郎 (北陸先端科学技術大学院大学)

総 評 (研究を継続すべき：優れた成果が期待できる)

本研究は、大量のテキストから教師なしの自動学習によって得られた知識をもとに一般ユーザーに対して能動的に質問を発生し、有用な情報を収集する対話エージェントを開発するものである。

研究計画に示す単語の意味分類、上位語の学習推論規則の学習などに関する研究が行われ、従来の言語処理がともすれば、作られた大規模データベースを対象とするのに対して、インターネット上のテキストを対象とする研究手法のアプローチはユニークであり、言語解析の観点からは興味深い結果が得られている。最終目標の対話エージェントのプロトタイプシステムがどのような分野で適用できるのか、具体的な達成目標や適用対象を設定する必要があるが、これまでの研究については概ね順調に進捗しているものと評価できる。期間内に有意義な知見を見出しており、科学的・技術的な価値は概ね高いと判断できる。しかし、本研究が今後のエージェント構築の方法論として、どこまで一般化できるのか、この検討は必要である。

また、企業との連携が可能であれば、技術的な波及効果も概ね期待でき、今後のネット利用を考えると、注目すべき点がある研究枠組みと思われる、社会的な波及効果も概ね期待できる。なお、本研究者より草の根情報発信の容易性が指摘されているが、混乱した情報が溢れてしまう危険性もあり、留意する必要がある。情報発信については、現時点までの取組みとしては概ね行われているものと評価できるが、今後は、口頭発表だけでなく論文誌での成果発表も期待される。

一方、所属機関においては、助教授が独立して研究室を運営できる環境が提供されており、任期付研究員が主体となり十分自立した研究が行われているものと評価できる。また、任期制の定着への効果については、所属機関において積極的に任期制が導入されており、本研究も概ね順調に進捗している。研究の途中段階ということもあり、現時点では概ねあると評価できる。

任期付研究員に対する所属機関の支援については、上記のような環境が提供されるなど、これまでの研究の進捗状況を勘案すると、概ね支援が行われているものと評価できる。

以上により、本研究は概ね順調に進捗しているが、今後の応用展開が不明瞭な部分も見受けられ、今後の更なる発展を期待しつつ、現時点では優れた成果が期待できる研究であると評価できる。

< 総合評価：b >

今後は、質問の生成、評価、適用について計画的に研究を進めること、例えば推論方式に論理的なアプローチを取り入れ体系化すること、評価法に対し明確な考え方を導入することなどが望まれ、こうした点に留意し、所期の目標達成に向けて研究を継続するべきである。

< 今後の進め方：a >

評価結果

総合評価	今後の進め方	目標達成度	研究成果				研究計画	研究者の自立性	任期制の定着への効果	所属機関の支援
			科学的・技術的価値	科学的・技術的波及効果	社会的・経済的波及効果	情報発信				
b	a	b	b	b	b	b	b	a	b	b